

留学先決定に至るまでの経緯

白川亮

東京大学大学院経済学研究科

マサチューセッツ工科大学 (MIT) 経済学部博士課程へ進学予定の白川亮と申します。横須賀学院高校というところを卒業して東京理科大学に入学、その後東京大学大学院へ進学しました。専門は理論経済学で、現在は制度設計の理論や情報設計の理論と呼ばれるものについて考えています。ここでは留学先決定に至るまでの経緯について簡単に記させていただきます。

1. 大学入学から出願まで

大学入学当初は経営学科にいたのですが、そこでは残念ながら何をどう勉強すれば良いのか全くわからず、すぐに挫折しました。そんな中、中高時代の塾の先生（今は先輩研究者！）と再会する機会があり、彼が経済学を勧めてくれました。それは想像していた経済学とはかなり遠く、数学的で、しかしそこを面白く感じ、気がつけば経済学を勉強するようになっていました。

経済学者の道を本格的に意識するようになったのは多分学部三年次頃で、人生で初めて定理を見つけた時です。思い返すと非常に小さな結果でしたが、今この定理を知っているのは世界で自分だけかもしれない、とか考えたりすると自信ができました。大発明のように報告したせいだとは思いますが、先生方が褒めてくれたのを覚えています。この体験以来、もし経済学者になれるなら是非なりたいと強く考えてきました。

経済学者になりたいと色々な人に相談すると、留学に関する情報が自然と入ってきます。世界的に著名な研究者の多くが米国のトッププログラムに所属していることと、今後そうなりそうな学生の多くがそこへ集結することから、留学することの利益は大きいようでした。さらに聞いたり調べたりするうちに、経済学で博士留学するには東大に行くのが色々良いらしいことがわかったので、修士課程は東大に入学し直しました。もちろん留学を抜きにしても、やはり東大は頭のいい人達で溢れていて、大変刺激的で有意義な日々を過ごせました。

2. 出願準備

経済学の博士留学に必要な出願書類は過去の先輩方が挙げている通りです。特に、推薦状が重要だと言われています。推薦状のインパクトは、誰がそれを書いたかと、そこに何が書かれているかで多分決まります。前者については、尊敬する先生方に執筆していただいたので心配は要りませんでした。後者については、僕の分野では基本的に中身を見てはいけない事になっているのでわかりませんが、先生や先輩方と話した感じ、どうやら東大の修士学生の場合、コアコースと呼ばれる必修六科目の順位と修士論文のレベルでコントロールできます。勿論これに限らず、例

例えばサーチアシスタントで何かしら良い結果を残したり、推薦者の担当する授業で素晴らしいコメントを残したりすることも、推薦状の中身を強くするかもしれません。

ちなみに、最低限の能力を示すために TOEFL と GRE の足切りを突破しなければなりません。僕の場合、大学院の授業が英語だった事を言い訳に無対策で TOEFL を受けたら、足切り（100点/120点満点）を超えないどころか、学部生の頃に受けた時より低い点を取りました。GRE についても、算数が簡単すぎて対策するまでもないと良く言われますが、模擬試験を受けたら全大学の足切り（およそ満点？）にきつとかかる点数でした。僕はたまたまなんとかなりましたが、受験はお金がかかるので、英語と算数が苦手な後輩たちは是非気をつけましょう。

3. 出願から留学先決定まで

全部で十のプログラムに出願し、そのうちスタンフォード大学 (GSB)、MIT、ハーバード大学、プリンストン大学、イェール大学、ノースウェスタン大学、ペンシルバニア大学から合格をいただきました。他には、スタンフォード大学 (Econ)、シカゴ大学、コロンビア大学に出願しました。僕の場合は関心がしっかり定まっていなかったので、教員などはあまり考えず、経済学博士課程において一般にトッププログラムと呼ばれるところから十個選んで出願しています。

可否の結果は二月あたりに届きました。不合格だと何も起きませんでした。合格した場合は憧れの先輩方や教員方から一気に連絡が届き、面談をする時間などを設けてくれます。特にイェール大学とハーバード大学の教員方には、進行中の研究について相談する時間を何度も割いていただきました。また、選考に携わった先生とは、お給料等についても相談できました。

最終的にどこに行くべきか、非常に悩みました。事前には元々の関心分野（制度設計の理論）で特にフィットの良いスタンフォード大学に一番行きたかったのですが、出願中にそれと別の分野（情報設計の理論）で研究を始め、事後的には MIT との相性も同じくらい良いことがわかりました。他にも色々な要因で悩みましたが、関心の近そうな将来の同期たちに相談して、結局は MIT に決めました。良い選択だったと思えるように成果を上げたいです。

ちなみに、留学後しばらくはインプットで結構忙しい様なので、出願後は研究活動に集中しました。これが理論経済学専攻の学生にとって一般に正しい行動だとは思いませんが、現時点で僕はそうして良かったと感じています。修士論文（出願資料として提出した論文）の時とは全く異なる分野についても研究をしたのですが、研究と並行して新しい知識が得られましたし、自分がどの分野の研究をしたいのか・するべきかをよくわかっていない事もよくわかりました。

■ 最後に

船井財団様や指導教員の皆様のサポートにより、素晴らしいプログラムから入学許可をいただくことができました。この場をお借りして御礼申し上げます。現状だと MIT は身の丈に合っていないかもしれませんが、皆様に再び良い報告が出来るよう努めます。